

Ephedra 属植物の草質茎による挿し木に関する研究

○野村 行宏¹, 平山 学¹, 三宅 克典¹, 佐々木 陽平¹, 御影 雅幸¹(¹金沢大院薬)

漢方生薬「麻黄」の原植物である *Ephedra* 属植物は日本に自生せず、全量を海外からの輸入に依存してきた。一方、産出国における資源減少により、近年その確保が困難になりつつある。我々は麻黄の国産化を視野に入れ、原植物の栽培方法を検討している。本属植物の繁殖については、これまでに、株分け、実生、挿し木法などが報告され、¹⁾ 株分け法が最も有効であるとされている。しかし、株分け法では実生から3~4年以上経過した株でなければ利用できず、また一度に多くの個体数を得ることが出来ない。また、実生法では安定した優良株の増殖が望めない。多量の優良株（クローン苗）を得るには挿し木法が優れているが、これまでの研究²⁾ では、木質茎を挿した場合には15~40%の活着率であるが、草質茎では10%程度以下と報告されている。そこで、本研究では木質茎に比して多量の挿し穂が確保できる草質茎の挿し木法について検討した。

【方法】本学の薬用植物園にて、*E. sinica* その他の草質茎、パーミキュライト単独あるいは川砂との混合土を用い、挿し穂の切断部位、長さ（①3~10 cm, ②11~20 cm, ③21~30 cm, ④30~40 cm）及び保管場所（屋外ビニルハウス、人工気象器内：24時間照射、気温25℃、湿度：80%）について検討した。

【結果】挿し穂の切断部位は節の下部1 mm が適しており、保管場所については人工気象器内において高い発根率を示した。*E. sinica* で発根率が最も高かったのは③で、次いで④、②、①で、最大81.8%であった。茎が太くなる *E. saxatilis* では挿し穂の長さに関係なく82.6%の発根率であった。

1) 『薬用植物 栽培と品質評価 Part 9』, 薬事日報, 東京, 2000, pp.67 - 78.

2) 藤田早苗之助, 栗原孝吾, 衛生試験所報告, 85, 112 - 114 (1967).